

**大雪山国立公園表大雪地域登山道維持管理部会準備会
(オンラインによる話し合い) 概要**

日 時：令和2年6月11日(木) 13:30～15:40

方 法：ウェブ会議サービス「WebEx」(環境省アカウント)を利用して実施

出席者：以下の表のとおり(敬称略)

オンラインで参加	
富良野市商工観光課	笹田 武志
東川町／旭岳ビジターセンター	高橋 可翔
NPO 法人アース・ウィンド	横須賀 邦子
NPO 法人大雪山自然学校	藤 このみ
合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊	岡崎 哲三 下條 典子 柳沢 準
大雪山国立公園パークボランティア連絡会	黒田 忠 (※機器トラブルのため傍聴のみ。)
TREE LIFE	荒田 康仁
山のトイレを考える会	仲俣 善雄
北海道大学大学院地球環境科学研究院	渡辺 悌二
北海道大学大学院農学研究院	愛甲 哲也
株式会社りんゆう観光	山崎 弘二
山岳レクリエーション管理研究会(オブザーバー)	山口 和男 (※機器トラブルでマイクが使用できないため、傍聴のみ。)
大雪山国立公園管理事務所にて参加	
北海道上川総合振興局環境生活課	福井 拓郎
上川町産業経済課	三浦 大輝 鈴木 創太
山樂舎 BEAR	佐久間 弘
大雪山国立公園管理事務所(事務局)	国立公園保護管理企画官 榊 厚生 国立公園利用企画官 佐藤 巧 係員 松野 壮太 自然保護官補佐 岩城 大洋

	自然保護官補佐 忠鉢 伸一
大雪山国立公園管理事務所 東川管理官事務所（事務局）	国立公園管理官 齋藤 明光 自然保護官補佐 渡邊 あゆみ
大雪山国立公園管理事務所 上士幌管理官事務所（事務局）	国立公園管理官 橋口 峻也

1. 開会

■大雪山国立公園管理事務所

新型コロナウイルスの影響を受け、登山道関係者で情報を共有したり、できることは何か議論するために集まっていた。可能な人だけが参加する会議であるため、全体で方針決定や合意形成はできないことが前提。言い換えれば、機会と都合の合う人から可能な範囲で意見を伺うことが今回の趣旨である。

必要な取組については、今日の意見を踏まえて事務局が主体で実施し、取組状況を、メーリングリストを通じて皆さんにフィードバックし、随時ご意見いただき、適宜取組を修正していき進めていく。

今回の話し合いの結果は、議事録を作成し、メーリングリストで全体に共有させていただく。

2. 議事

（1）アンケートの実施結果について（本年度の各団体活動内容の情報共有を含む）

資料に沿って大雪山国立公園管理事務所より説明。各団体からの発言は以下のとおり。

■りんゆう観光

黒岳石室の管理を受託しているが、石室の感染防止対策ができないため、今年度は管理人常駐での運営（いわゆる営業）はしないということでプレス・HP掲載した。本日の北海道新聞にも掲載してもらった。ただし、管理人1名は必ず毎日現地に行き、清掃・補修は行う。宿泊棚にもビニールで仕切りをつくり、接触を抑える工夫などをしたい。

野営場は通常どおり使用可能。トイレについては制限があり、携帯トイレを

推奨して使ってもらおう。みなさんにも広く周知していただきたい。

あくまでも緊急時のための避難小屋なので、黒岳石室を使用することを前提とした登山計画は遠慮していただきたいと伝えている。愛山溪は通常どおり 6 月 1 日から宿泊受け入れ、いろんな対策をしながらやっている。

ロープウェイの利用客は少なく、平日は 20 人くらい、休日 40~50 人くらいだが、5 月 25 日緊急事態宣言が解除されてから登山者が少しずつ戻り、特に道内の登山者は昨日も 10 人くらいで、少しずつ戻ってきている印象（昨日は遭難があったが無事に戻ってきた）。

■TREE LIFE

6 月いっぱいツアーがキャンセルになったが、北海道庁より「新・北海道スタイル」に沿って、ツアーを再開して良いとの話がある。北海道のアウトドアガイド資格を有している事業者には、北海道庁による補助が開始される。環境省からも補助事業があるので、活用させていただく。大雪山に来る登山者に対して「新・北海道スタイル」をできるだけ周知して、たとえば山に入るときには体温測定してもらったり、密集・密接にならないように近づいて登山しないようにしてもらったりということを登山者に伝える。ガイド登山は安全性を確保できるということで早めに再開したいという話も北海道庁からあった。

■北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡邊教授

情報発信について、日帰り登山者と宿泊登山者を明確に分けて発信すべき。日帰り登山に対しては全国的に情報発信がされているが、連携がなされず内容がバラバラになると利用者が混乱するため、大雪山国立公園連絡協議会でうまくとりまとめていただきたい。登山者がすれ違うときに登山者どうしが距離を置くために高山植物への踏む込みが増える懸念がある、あるいは登山道脇を侵食させる可能性があるなので気をつけていくべき。宿泊登山については、黒岳石室が使用できないと、野営指定地は無料で利用できる考える人など、利用が増えるかもしれない。みなさんとの調整次第だが、場合によっては、今年は宿泊はやめてくださいと強く言ってもよいのではないかと思う。大雪山国立公園連絡協議会として強いメッセージを発してもよいと思う。

■大雪山自然学校

旭岳自然保護監視員の話として、6 月 12 日までロープウェイが運休しているため、例年と異なり、姿見の池ではまだあまり活動していない。コロナウイルスの影響で登山者が自ら考えてロープウェイの利用を控えて行動することが想

定されるため、天女ヶ原登山道の整備（草刈りなど）を中心に実施している。登山者が自ら考えて密を避けて行動したときに、あまり整備されていない場所に人が流れて安全性に問題があるということがないよう、整備していけたら良いと思っている。

活動内容は、各場所の維持管理とレクチャーの大きく2つに分かれる。前者は、人が来ると思うので通常どおり実施するが、客が少し減るぶん、登山道の補修など普段より実施できることは増えると思う。レクチャーや接客業務、救助活動等は感染リスクがあると思うので、監視員・大雪山自然学校の内部でガイドラインを作成して対応しようとしている。特に救助活動は、感染対策のカップを用意するなど、スタッフの感染予防を重要視して活動していく予定。

旭岳青少年野営場の管理も担当しているが、6月10日から通常どおりオープンした。旭岳温泉街のホテルが1軒を除いて営業していないこともあり、普段から車中泊が多い場所でもあるので、野営場をしっかりと管理し、感染対策を講じながら運営していく。

■富良野市

6月に予定していた市民を巻き込んだ登山会は中止とし、関係者のみでの安全祈願祭とした。8月の山の日に向けて、2回目の登山会は保留中。

富良野市として、この機に登山道のあり方を考えてみようと思っている。たとえば、森林管理署から富良野市が登山道管理者になってほしいと従来から言われてきたが、これまで管理者にならないままだった。登山を市の観光資源として推していきたいと考えていて、原始ヶ原の滝コースの橋がかかったこともあり、富良野市の観光資源としての位置を高めていくために、管理者となり積極的に管理していければよいと思っている。しかし、管理者になったときのメリット・デメリットがきちんと理解できていないので、止まっている状態。

■東川町

旭岳VCは6月から通常どおり9～17時に開館しているが、インフォメーションカウンターにビニールを設置して飛沫感染対策をしている。玄関にはアルコールを設置して、来館者に消毒してもらっている。見学時にはソーシャルディスタンスを保つよう2m以上の間隔をあけていただくよう呼びかけている。人がたくさん入ってくることは少ないが、一部の場所に人が密集することにならないよう、密集している場合には密を避けるよう呼びかけるつもり。ロープウェイが6月13日から運行再開だが、6月29日から整備点検のため再度運休となるという変則的な状況なので、当方でも確認しながら情報発信する。

旭岳の山開きは6月20日(土)に実施するが、山の祭りは中止とし、安全祈願祭と「ヌプリコロカムイノミ」を関係者で行うのみとする。

軽装で上まで行けるかどうかという問い合わせが増えているが、この時期、雪が中途半端に溶けて、藪の上に雪がかぶって道がわかりづらくなっていて、特に姿見の池に近い場所はわかりづらいので、山の装備と登山経験がないと危険だと周知している。

■上川総合振興局

北海道庁の自然環境課 HP に「山岳環境」としてまとめて避難小屋の留意事項を発信している。このページを新型コロナウイルスの状況を踏まえて更新するよう本庁に依頼し、更新されたが、伝え方としては修正内容が穏やかすぎると個人的に感じている。本庁は、避難小屋はあくまで悪天候時に利用されるものだとして従来からアナウンスしていて、その考え方は変わっていないためと説明しているが、発信方法について意見があれば皆さんからお寄せいただきたい。

黒岳石室のトイレについては、感染リスクを抑えるため、4ブースのうち2ブースを通常のトイレとして開放し、2ブースを携帯トイレ専用ブースとして開放する。ただし、利用者と管理作業者の双方の感染リスクも抑えるため、可能なかぎり携帯トイレを利用してもらおうよう強く周知していく考えである。昨晚、HP で注意事項を更新したが、HP の階層が入り組んでいてわかりづらいので、改善していく他、上川町、りんゆう観光、大連協の HP からリンクを飛ばすようにする。合わせてロープウェイやビジターに掲示の周知をしていく。

■上川町

施設については、道庁やりんゆう観光から話があったとおり、感染対策を講じながら運営していく。秋の紅葉時期のマイカー規制については、今年度も実施する方向。実施主体の道北バスと協議し、マイカー規制の協議会を通じて方策を考え、3密にならないよう注意しながら進めていきたい。

■アース・ウィンド

山岳ガイド連盟から基準となる指針が出されたので、それに従うつもり。7月1日よりプライベートガイドのみを受け入れて実施していく。頻度は通常の3分の1(1週間に1回くらい)に抑えて、少人数で実施していく。

ガイド事業者としては、避難小屋の状況が気になる。ヒサゴ沼避難小屋は改修されたばかりで、また、複数のルートからエスケープルートがないため天候悪化の場合、ヒサゴ沼避難小屋に集中するため、利用者数の調整を事前にして

いくべきではないかと思っている。国立公園内のビジターセンターで利用者数を管理していただきたい。

温暖化に関する開花・結実の記録は、5月まで中止、6月1日から実施している。記録のため登る人は単独で、ベテラン登山者をお願いしているので、感染リスクや事故等のリスクは比較的低位が、装備と計画を提出し、周りに知らせながら実施してもらうようにしている。調査の新人育成を今年は7回実施予定なので、毎回体温測定やマスクを持参してもらうなどの対策を予定。マスク着用の登山は難しいので、距離を保つしかない。

■北海道山岳整備

登山禁止ということにはできない状態だと思っているので、登山者は来ると考えて対策などやれることは行って管理すべきと思っている。そのため、発信体制は重要で、きちんと情報提供をしなくてはならない。やるだけやって、感染者が出てしまったら仕方ない。これからは新型コロナウイルスとどう共存するかという形になってきているので、無理に登山者を禁止するというコントロールをすべきではない。これまでどおり登山道の整備を実施すべきと思っている。

今年は白雲岳避難小屋とヒグマ情報センターの管理、大雪山・山守隊の活動の3つが中心となる見込み。基本的に白雲岳避難小屋は使用できないため、管理は難しくない。先日、白雲岳避難小屋工事の業者と話したが、テント場周辺でも工事作業を行うので、登山者がテント場を利用するとしても楽しくない山行になったり、作業に乱れも生じたりするので、できるだけ登山者はテント泊も遠慮してくださいという発信になる。ヒグマ情報センターの管理はこれまでどおり実施する。

大雪山・山守隊の活動については、すでに何度か実施していて、橋の架け替えや裾合平のポールマーキングを実施した。本当は人を集めて実施したいが、なかなかできない状況なので、今年は指導できる人を育てるということに主眼にして、少人数で実施していきたい。これらについても発信が重要であるため皆さんと協力して行っていきたい。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲准教授

つい先日まで研究活動もできなかったが、6月下旬から徐々に活動できるようになる見込みである。昨年のような登山者対象のアンケート調査は難しいが、裾合平（7月末）、雲の平（8月上旬）、南沼（お盆前後）での植生復元調査を実施予定。調査区の杭を設置し、ドローン調査を予定している。

また、これまでどおり登山者に情報提供を呼びかけるサイトを作っている。あまり多くの人に見てもらえてはいないが、今年は特に避難小屋の利用状況を共有することが重要なので、積極的に呼びかけていきたい。

■山のトイレを考える会

昨年と同じように山岳団体による美瑛富士携帯トイレブースの点検パトロールを実施する（7月12日～）。登山者が少ないし、コロナの影響で必要ないのでという声もあったが、例年どおり実施。

山のトイレマップ 2020 版を作成し、現在印刷中。「黒岳トイレが和式2基・携帯トイレ2基になっている」、「白雲岳避難小屋は使用不可、野営地も休日は自粛」など、吹き出しをつけて表現している。

心配しているのは、各市町村で回収ボックスから使用済み携帯トイレを収集する際、使用済み携帯トイレに直接さわるのでコロナ感染リスクがあること。白金温泉・十勝岳温泉では、回収ボックスの中に屑箱（2個）を入れているので、使用済み携帯トイレに直接触れなくてよい構造になっている。大雪山国立公園内に携帯トイレ回収ボックスが11箇所あるが、直接手に触れなくてもよいのは上記2箇所のみなので、今年はほかの場所についても同じような構造にできるよう関係者に働きかけたい。

黒岳トイレは、携帯トイレ2室だが、初心者も行く場所なので、携帯トイレを使ったことがない人もいると思う。7合目の黒岳の森林事務所で入林届を書く際に、携帯トイレを持たずに石室へ行く人に対して声かけをしたり、携帯トイレを販売している旨の看板を立てたりしてほしい。黒岳石室を通じて携帯トイレを体験してもらえるとよい。また、苦情が出てきた場合（待ち合わせの行列など）の対応方法も事前に検討しておくべき。たとえばテント型ブースを増設するなど。

■山樂舎 BEAR

ガイドをやっている人については、これから目途が立たない中で廃業や転職を検討する人も出てくると思う。人材の枯渇が起きて、若い人たちがいなくなってしまうことが心配なので、ケアが必要ではないかと思う。行政にもお願いしたいし、みなさんにも知恵を貸してほしい。

（2）大雪山国立公園における新型コロナウイルス関連の情報発信について

■山のトイレを考える会

どこの避難小屋もそうだと思うが、美瑛富士の避難小屋は泊まる人が多いと思うので、何かしらの注意喚起が必要。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲准教授

そもそも宿泊と日帰りを分けるべきではないかという観点に加え、宿泊登山に関して管理者はバラバラであるが、全体的な方針が見えづらいので、明確に示したほうがよいのではと考える。

写真つきの情報発信はわかりやすいが、それに加えて、避難小屋の宿泊スペース（面積）や野営指定地の面積といった情報があれば、わかりやすくなると思う。大雪山国立公園連絡協議会 HP にも定員が書いてあったはず。

渡辺教授からも話があったとおり、大げさに人を避ける行動をとる登山者が多いので、登山道脇の植生への踏み込みが増えている。改めて注意喚起があったほうがよいのではないか。

質問だが、この資料は修正不可能な文書のような形で掲載されるのか。それとも途中で修正可能なのか。

■大雪山国立公園管理事務所

資料は PowerPoint で作成していて、完璧なものではないし、状況変化も起こりうるので、途中で変えていく前提で考えている。

■愛甲教授

途中で変更があることもあるので、途中ですぐに修正対応できる方法がよい。

■富良野市

登山道が狭いため、往来時に極端に登山道を外れる人が出てくるのが想定される。原始ヶ原登山口のトイレは通常どおり使用可能。（ここで退室）

■りんゆう観光

入口等で掲示できるよう、登山にあたっての一般的な注意事項をわかりやすくまとめていただきたい。日本山岳救助機構が情報をまとめた資料の中で、登山にあたっての注意事項が書かれている。たとえば、「マスクは登山中に外し、休憩中には着用しましょう」というようなことや、「登山中は息が荒くなるので 2m 以上離れましょう」、あるいはすれ違い時はどうするか、あるいは消毒のタイミングなど、有用な情報を抜粋して、なるべくイラストでわかりやすく発信

してほしい。

■大雪山自然学校

野営指定地について、この資料のように「7月中旬～8月の休祝日は密集」などと記載すると、慣れていない登山者が密集する8月は避けて9月に利用すればよいと理解して登山者が増えることが心配。新型コロナウイルス対策に気をとられすぎて、逆に通常の登山で気をつけるべきことがおろそかになるのが怖いので、新型コロナウイルスに関する情報のみが資料に掲載されているということが一目でわかるようにしたほうがよい。

■北海道大学大学院環境科学研究院 渡辺教授

登山者同士のすれ違い時に高山植物が踏み荒らされないよう注意喚起を加えたほうがよい。

■TREE LIFE

美瑛富士周辺など、ハイマツがあって避けるスペースがない場所もあり、どのような注意喚起をするか、距離が近ければ声を出してすれ違いはできるが、距離の長い区間もある。

通常の登山で気をつけるべきことがおろそかになるという事態は別の国立公園でも起きていて、たとえば樽前山や風不死岳などでは登山経験の浅い人であふれて、サンダルのみで登ったり、防寒着を持たずに山頂まで登ったりする人もいる。

■北海道山岳整備

今後の状況については想像がつかず、考え出すとキリがない部分も多いので、現場では臨機応変に対応することになると考えられる。現時点での注意喚起はどうしても限られてしまい、すべて情報を載せるのは難しい。例年より事故が増えると考えられるし、植生の踏み込みは起きる。それを止めるために労力を費やすのも必要だが、登山を禁止ができない以上、多少のリスクは仕方がないと思っている。どこに労力をかけるかがポイントで、やれることをやるべきであり、情報共有もそうであるが、臨機応変に動ける体制づくりが重要だと考えている。ヒグマ情報センターでもレクチャーの内容を少しずつ変更するなどしている。現場で起きた出来事を関係者間や登山者と情報共有することが重要。

黒岳のトイレが気がかり。当初は、管理者がいてもいなくても閉鎖するという方向で調整されていて、いくら携帯トイレを推進するといっても、それだと

汚物だらけになり環境が悪化する。これから北海道で山岳地域での観光を推進していくにあたり、トイレ環境の整備は重要で、南沼のようにいったん汚くなると取り返しがつかなくなるので、今だからこそトイレの管理はきちんと行い、このような状況下でもトイレはきちんとしていたと登山者に発信してもらえるくらいになるとよいと思っている。

資料については、写真が加わって見やすくなったと思うが、デザインはもう少し改善できないものか。

■アース・ウィンド

20年間発信し続けていてもまだ実現していないが、10人や20人といった大人数で登山することで植生荒廃や土壌侵食が起こることが問題である。1グループあたりの人数制限をしてほしい。登山道でも休憩地でも密集が起きることを考えると、今回のコロナ禍を機に、大人数での登山を見直すべきではないか。

■東川町

誰が見るものなのかということ意識して情報発信したほうがよいと感じた。

■大雪山国立公園管理事務所

YAMAP やヤマケイオンラインなどの大きな媒体に情報を載せることも検討したい。

■上川総合振興局

黒岳トイレについては、北海道が設置しているので管理主体は北海道だが、利用については上川地区登山道維持管理等連絡協議会の枠組みの中で決めていくものなので、近日中できれば来週中に最終的な方針を整理したいと思う。

■上川町

イラストも使って、登山者に対して視覚的にわかりやすく訴えることが重要だと感じた。新型コロナウイルスに関する大雪山国立公園の対応方針が早めに出されていれば、各管理者も統一的な対応ができていたのだろうと思う。

■山樂舎 BEAR

PowerPoint の資料は、スマホでしか情報収集しない人には届きづらい。管理者側が発信しているチャンネルに同調しない人には情報が届かないことになるので、実際に巡視している監視員などが現場で声かけできるよう、山岳関係者

はむしろ普段よりたくさん山に入ったほうがよい。

■大雪山国立公園管理事務所

多様な形で伝えていくことが重要だと感じた。

■大雪山自然学校

今回の黒岳トイレの利用方法は、携帯トイレを利用する人が増えるきっかけにもなるのでよいと思う。そのようなことを登山道にも当てはめて、これまで利用が集中していた登山道から、あまり利用されていなかった登山道へと登山者を誘導するような情報発信があってもよいと感じた。たとえば、きちんと維持管理されているが、安全でありあまり利用されていない場所があれば、その場所について情報発信を多めにするなど、どのように登山者を動かしていきたいかという考えのもと情報発信をしてもよいと感じた。

(3) 登山道維持管理作業実施手順マニュアルについて（本年度の運用方針のお知らせ）

資料に沿って大雪山国立公園管理事務所より説明。

■北海道山岳整備

登山道整備の敷居が下がったので、いろいろと試してみたいと思う。そのぶん、問題が発生するリスクも増えたと思うので、やり方に問題があればすぐに直せる対処、良ければ進めるといった臨機応変の対応が必要であるため、関係者間での情報共有をしっかりとすべき。環境省の担当者が替わったあとも体制が続くようお願いしたい。

■北海道大学大学院 愛甲教授

大雪山関係者がそれぞれ異なる対応をとることにならないよう、関係者間でメーリングリストを使って情報共有できるようにしたほうがよい。

メーリングリストについては、はじめのうちは発信しづらいと思うので、まずは環境省から発信してもらえるとよいと思う。

■大雪山国立公園管理事務所

メーリングリストの利用方法を明文化したものを事務局で整備しているところ。近日中にお知らせしたい。あくまで全員に対して発信したい場合にメーリ

ングリストを利用するということを想定している。

3. 閉会